

今週のメニュー

[トピックス](#)

日経住まいのリフォーム博2010出展に向けて

[随想](#)

ルワンダ旅行記(4) - 融和 -

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

[お知らせ](#)

日経住まいのリフォーム博2010 出展のご案内

[編集後記](#)

トピックス

日経住まいのリフォーム博2010出展に向けて

11月12日から14日、東京ビッグサイトにおいて、『日経住まいのリフォーム博2010』が開催され、塩ビ工業・環境協会(VEC)も出展することとなりました。

VECが普及促進の活動を行っている樹脂サッシが、本年1月に始まった住宅版エコポイントの対象になったことから、一躍注目を浴び多くの方に認知され始めていますが、今回も樹脂サッシの展示を通じて改めてそのメリットをより多くの方に知って頂き更なる普及促進につなげたいと考えています。

また、住宅版エコポイントの対象とはなっていませんが、VECがその普及に注力をしている樹脂サイディングの紹介も併せてさせて頂く予定です。



塩ビミニハウス(会場に展示)
(樹脂サッシ、樹脂サイディングを施工)

以前の[メールマガジン](#)でも紹介致しましたが、昨年制定された長期優良住宅普及促進法では構造躯体の劣化対策、耐震性、維持管理、更新の容易性、可変性、バリアフリー、省エネルギー性の規定が示されています。簡単に言えば、「耐久性のある質の良い住宅をいかに供給していくか」「既存の建物をいかにメンテナンスし長持ちさせるか」ということになるとおもいます。特に個別の部材についての具体的な規定は示されていませんが、耐久性や維持管理の容易性は正に樹脂サイディングの最大のメリットであり、長期優良住宅のコンセプトに合致していると言えるかとおもいます。今回は特に「塩害からの家屋躯体の保護」「耐震改修」についての研究成果を中心に展示、紹介をさせて頂く予定です。(了)

ルワンダ旅行記（４） - 融和 -

（社）日本化学工業協会 若林 康夫

ルワンダを語るには大虐殺を避けて通ることはできません。

ルワンダの人は、大虐殺があったことを事実として受け止め、この国の未来を託す子どもたちにも隠さないことを基本としています。

ルワンダには首都キガリだけでなく、ツチ族の人が助けを求めて逃げ込み、大虐殺の場となった教会など多くの場所が記念施設として保存されています。これらの施設では、殺害された人たちの顔写真、遺骨や遺品、当時着ていた血まみれになった衣服などを展示するとともに、その当時の写真やビデオなども見ることができます。

大虐殺は一般の人が中心だったため、武器としては普段、農作業で使っている鉞や鍬などが多く用いられました。

また、大虐殺が行われたのは 1994 年ですから映像も数多く残されています。いつも生活をしている道路上で鉞で頭を割られる人、逃げまどう人の手や足を切り落とす人、道路沿いにずらりと並んだ死体、など正視するのも辛い映像ばかりです。

ルワンダでは中学生になるとこのような施設見学が行われます。もちろん、上記のような映像も、隠すことなく全て見せます。そして、当時、ルワンダで何が問題で、何が起きたのか、また、ルワンダだけでなく世界各地で虐殺行為が繰り返されるのはなぜかということ学びます。

見学に来た生徒の中には、話には聞いていた大虐殺の映像をまともに見て、体が凍りついたように動けなくなる生徒もいます。同級生であるフツ族とツチ族の間でぎくしゃくとした関係になることもあるようです。

しかし、それを乗り越えなければルワンダの将来はありえないと、敢えて生徒に見せることを選んだそうです。

街を歩いていると、一般の家や公園、公共施設などで普通の土木作業員とは異なり、ピンク色やオレンジ色の作業服を着た人たちが作業をしているのを見ることがあり、地元の人は遠巻きに見守っています。

ピンク色やオレンジ色の作業服を着て作業をしている人たちは、大虐殺の加害者として逮捕された囚人です。刑務所内で作業をするのではなく、被害者に目に見える形で謝罪をするために、刑務所外での作業に従事しているのです。



キガリにある虐殺記念館のモニュメント。
(この下に多くの遺骨が納められています。)

大虐殺についてはあまり語ろうとしないルワンダの人たちですが、ごく少数の方に話を聞くことができました。

「当然、わだかまりはある。憎さもある。普通の生活をしていただけなのに、なぜ、訳もなく隣人に殺されなければならなかったのか、いまだに解けない謎だ」と語ってくれたのは両親や兄弟全員を殺された人。

「うちの家族は父親がフツ族、母親がツチ族出身。私はそういう言う意味では混血。家族の分断。でも私は分けることはできない一人の人間なんだ。親戚同士が殺しあうなんて。。。」

「家族や親族の何人かは大虐殺の加害者としていまでも服役している。あの状態では殺害する側に参加しないと、こちらも殺されてしまう状態だったんだ」とフツ族出身の人。

「いまでもこの国を許せない。住んでいること、この国の国民であること自体、恥ずかしい。もしチャンスがあれば、他の国に行きたい」

「忘れることはできません。時とともに記憶が薄れることもありません。いまでもはっきりと覚えています。だって、大切な家族が目の前で次々と殺されたんですよ」

「あの時は国中が狂っていたんだ。誰もが正常な状態ではなかったんだ。国連軍？いくら介入しようとしても、ルワンダの国民全員が狂っていたんだから介入なんて不可能だったんだよ」

「あの時は殺すことしか頭になかった。相手はただのゴキブリにしか見えなかった」

現在では民族融和がルワンダの最大の課題です。

日本も第二次世界大戦後の復興は素晴らしいものがありました。あれは日本人が心をつにして復興に邁進したからできたと思っています。

ルワンダでは国が2つに分かれました。

大虐殺後、仲良く国の復興に努めましようと言われてもそう簡単なものではなかったはず

です。もちろん、国連をはじめ、世界各国からの様々な援助もありましたが、ルワンダの人たちがわだかまりはあるものの、生活をしていく上でどのように心の整理をしたのか、短い滞在の中では分かることはできませんでした。

「いまはツチもフツもトワも関係ないよ。日本人と同じように、我々はルワンダ人さ」と明るく答えてくれた若者が印象的でした。(つづく)

前回のルワンダ旅行記(3) - レジ袋 - は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/289/mag_289.pdf

お知らせ

日経住まいのリフォーム博2010 出展のご案内

「比べて選ぶ!」「聞いて安心!」「見て実感!」理想の住まいを見つける3日間。『日経住まいのリフォーム博2010』が以下の通り開催されます。

塩ビ工業・環境協会は、リフォーム関連製品・サービスゾーンに『塩ビミニハウス』を展示し、塩ビサイディングと住宅エコポイントで注目の樹脂窓をPRします。

- ・日 時 : 2010年11月12日(金)~11月14日(日)
10:00~17:00
- ・場 所 : 東京ビッグサイト 東4ホール
(VECブース番号:108)
- ・主 催 : 日本経済新聞社
- ・入場料 : 無料
- ・[日経住まいのリフォーム博2010](#)

編集後記

ようやく秋らしくなってきたと思ったら、急に冬になったり、また秋に戻ったり。時には天気予報で、「蒸し蒸しするでしょう」などと言っていたり。このところ、気温の変化が大きいですね。それに合わせて服装にも気を使いますね。そして、室温にも。このような不安定な時期、ご自宅の室温調整はどうかしていますか?多少の気温の変化には右往左往せず、快適に過ごしたい。しかも省エネで・・・とお考えなら、最近「住宅版エコポイント」で話題の『内窓』はいかがですか?

トピックスでご案内した『リフォーム博』では、実際に「樹脂サッシ」や「樹脂サイディング」を施工した塩ビミニハウスを展示し、詳しくご説明いたします。来週の12日からの金、土、日、是非ビッグサイトに足をお運びくださいませ。(自称ハチドリ主婦)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp